職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置	認可年月日	校县	長名			所在地			
日本工学院八王子専	- 専門学校	昭和6	62年3月27	日 中村	英詞		92-0983 東京都八王子市片倉町14	04番地1他			
設置者名			認可年月日		者名		042-637-3111	所在地			
	4 (P)						44-8650				
学校法人片柳芎	南	昭和3	31年7月10	日 十葉	茂		東京都大田区西蒲田5丁目)3-3732-1111	123番22号			
分野		認定課程名		認定学科名		専	門士認定年度	高度専門士認定	年度		専門課程認定年度
医療		医療専門課程		柔道整復科		平月	丈17(2005)年度	-		平成	26(2014)年度
学科の目的	柔道整復師	、JATIトレーニン・	グ指導者、	3得、および医療人としての	の人格の陶冶を	目指す。					
学科の特徴(取得可能な 資格、中退率 等)		ニングインストラク		十字社救急法救急員、マテラピー1級	ı	T			T	ı	
修業年限	昼夜	全課程の修了	に必要な総	授業時数又は総単位数	講義	i	演習	実習	実験		実技
3	昼間	※単位時間、単	位いず	2,940 単位時間	2,025 単	位時間	0 単位時間	0 単位時間	0 単	位時間	915 単位時間
年		れかに記入		単位	単	位	単位	単位	単	位	単位
生徒総定員	生徒劉	実 員(A)	留学生数	(生徒実員の内数)(B)	留学生割台	\$(B/A)	中退率				
90 人	51	Д		0 人	0 %		9 %				
	■卒業者数		:	19	, ,						
	■就職希望 ■就職者数		:	19 18	<u>/</u>						
	■机職有数			12	λ						
	■就職率(E	/D)	: * の割み /	95	%						
	■駅職者に	占める地元就職	白い剖台(F/E) 67	%	ó					
	■卒業者に	占める就職者の	割合(E/C)								
	■進学者数			95 0							
就職等の状況	■その他										
	(令和	6年	度卒業者(関する令和7年5月1日時	点の情報)						
	■主な就職	先、業界等									
	(令和6年度										
	(株)セラップ	、エルフレッチェ、	. ほねごり持	き骨院グループ、(株)TLS、	(株)オンアンド	オン、(株)爽	健グローバル、(株)SYNE	RGY JAPAN、(株)givers、	(株)マーサメディ	′カル、(株)コ	スモポリタンメディカル
	■民間の証	価機関等から第2	= 考証価・				有				
第三者による		臓機関等がらある。 、例えば以下につ		記載			Ħ				I
第二句による 学校評価		特	定非堂利!	動法人 私立専門学校				評価結果を掲載した			
		評価団体: 等	評価研究	機構	受審年月:平	4成26年3月		ホームページURL			
当該学科の											
ホームページ	https://www	v.neec.ac.jp/depa	artment/sp	orts/judoorthopaedics/							
URL											
	(A:単位時	間による算定)									
		総授業時数							2,940 単	位時間	
		うち	ち企業等と	連携した実験・実習・実技の	の授業時数				120 単	位時間	
		うち	ち企業等と	連携した演習の授業時数					0 単	位時間	
			ち必修授業						2,940 単		
				うち企業等と連携した必修	その実験・実習・	実技の授業!	诗 数			位時間	
				うち企業等と連携した必修			-134			位時間	
		(3				HT 30.					
企業等と連携した実習等	l	()	/つ止禾寺(:連携したインターンシップ	の反表可数)			1	U 単	位時間	
の実施状況(A、Bいず れかに記入)	(D = 11 = 1	- 4.7 体 - 1、									
10万円 高田人)	(B:単位数I							ı		44	
	l	総授業時数	L A	*#1 + #N + + ··	en Tall No. ort					位	
	l	<u> </u>		連携した実験・実習・実技の	の授耒時数				単		
	l			連携した演習の授業時数					単		
	l	うち	ち必修授業							位	
	l		ļ	うち企業等と連携した必修	の実験・実習・	実技の授業	诗数		単	位	
				うち企業等と連携した必修	多の演習の授業	時数			単	位	
	l	(5	ち企業等と	:連携したインターンシップ	の授業時数)				単	位	
		当する教育等に	に従事した者	を修了した後、学校等にお すであって、当該専門課程 とを通算して六年以上とか	の修業年限	(専修学	校設置基準第41条第1項	第1号)	1人		
		② 学士の学位	を有するも	等		(亩体学	校設置基準第41条第1項	第2号)	5 人		
	l										
教員の属性(専任教員に		③ 高等学校教					校設置基準第41条第1項第		0 人		
ついて記入)	l	④ 修士の学位	又は専門耶	戦学位 ————————————————————————————————————		(専修学	校設置基準第41条第1項	第4号)	1 人		
		⑤ その他			<u> </u>	(専修学	校設置基準第41条第1項	第5号)	0 人		
	l	āt							7 人	$\neg \neg \uparrow$	
	l										
								ı			
	l			教員(分野におけるおおす	むね5年以上の	実務の経験	を有し、かつ、高度の実務	の能力を有	7 人		
		する者を想定)の	J) 9X								
	I										

- 1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係
- (1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

厚生労働省による柔道整復師養成施設基準に準拠し、臨床の現場で活躍できるより良い医療人を輩出できるような授業の実施を心がける。現場での意見を取り入れ、対応できる授業の実施を行う。

- (2)教育課程編成委員会等の位置付け
- ※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
- 教育課程編成委員会は、校長のもとに設置する会議の1つである。校長を委員長とし、学科責任者、学科から委嘱された業界団体及び 企業関係者から各3名以上を委員として構成する。
- 本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。審議の結果を踏まえ、校長、学科責任者、教育・学生支援部員で検討し次年度のカリキュラム編成へ反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
阿部 雅信	広域社団法人 東京都鍼灸師会	令和7年4月1日~令和8 年3月31日(1年)	1
藤田 明	(有)フジタグル一プ	令和7年4月1日~令和8 年3月31日(1年)	3
田尻 賢	(株)アンド9	令和7年4月1日~令和8 年3月31日(1年)	3
中村 英詞	日本工学院八王子専門学校 校長	令和7年4月1日~令和8 年3月31日(1年)	_
荒井 哲子	日本工学院八王子専門学校 教育·学生支援部 部長	令和7年4月1日~令和8 年3月31日(1年)	_
三樹 春幸	日本工学院八王子専門学校 カレッジ長	令和7年4月1日~令和8 年3月31日(1年)	_
有山 敦士	日本工学院八王子専門学校科長	令和7年4月1日~令和8 年3月31日(1年)	_

- ※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①~③のいずれに該当するか記載すること。 (当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「一」を記載してください。)
 - ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、 地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
 - ②学会や学術機関等の有識者
 - ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員
- (4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (3月・9月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年4月23日 13:00~14:00

第2回 令和6年10月29日 11:30~12:40

- (5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
- ※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
- ・院によって考え方が異なる為、現場で育てることが主体になるが、継続できる力を育てることが今まで以上に必要であることを感じた。
- ・募集に関しては、国家試験の合格率も重要であるが、より他校との差別化が必要。
- ・前回と同様に現代に対応した授業を組み入れながら各科で検討していきたい。
- ・外部臨床実習の変更も検討する必要があると感じた。
- ・事前指導を含めて、現場でいろいろな事を感じ、変化する学生の評価なども検討したい。
- 今年度は国家試験結果を両学科とも前面に出しつつ、他校の差別化をはかり、学生と共に成長する学科として外部企業連携なども検討していきたい。 ・好奇心のある人材が良いとの意見がでた。在籍学生の仕事に対する意識改善と、現場での実習を踏まえて各学科で検討をしていきたい。学校として 資格を取ることが重要との意見もあり、学校のみならず外部や現場の経験がより必要な事を感じた。

- 2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係
- (1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等との打合せにより、企業等のニーズに沿った実習内容や評価方法を設定し、目標を明確にする。企業等からの派遣講師による実 践的な実習・演習を実施後、企業等の派遣講師による評価に基づき、教員が成績評価・単位認定を行う。

- (2)実習・演習等における企業等との連携内容
- ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

現場の先生方の意見を取り入れ、各種衛生材料(キャスト・厚紙など)、物理療法機械(ハイボルテージ、高周波など)を活用できるように している。

(2)目はめた連携の例必封日粉については伴まめた5封日について記載

_	3/共体的な建物の例次件	日数についてはし込むない	プイナロ に プレ・C 記載。	
	科 目 名	企業連携の方法	科 目 概 要	連 携 企 業 等
	後療法実技1	1. 【校内】企業等からの 講師が全ての授業を主 担当	部位別に具体的な外傷の整復・固定・ 後療法等や治療に至るまでの注意事 項を学びます。	株式会社セラップ
	後療法実技2	1.【校内】企業等からの 講師が全ての授業を主 担当	部位別に具体的な外傷の整復・固定・ 後療法等や治療に至るまでの注意事 項を学びます。	株式会社セラップ
	包帯1	1. 【校内】企業等からの 講師が全ての授業を主 担当	柔道整復師に必要な包帯の巻き方に ついて学びます。	ナンバ接骨院
	包帯2	1. 【校内】企業等からの 講師が全ての授業を主 担当	柔道整復師に必要な包帯の巻き方に ついて学びます。	ナンバ接骨院

- 3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係
- (1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
- ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、学科の内容 や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の 向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

第33回 日本柔道整復接骨医学会学術大会 連携企業等:日本柔道整復接骨医学会 研修名:

対象: 柔道整復科教員 期間: 令和6年11月30日(土)・12月1日(日)

医学的内容の公演や教育講演、シンポジウム 内容

徒手整復、物理療法、治療法などに関する分化会や症例発表等

②指導力の修得・向上のための研修等

第66回 教員研修会 連携企業等: 公益社団法人全国柔道整復学校協会 研修名:

期間: 2024年9月21日(土)・22日(日) 対象: 柔道整復科教員

『読解力を鍛えるコツは速く読み解く力と6つの技能』 現論会 柳生 好之 内容 など

昭和大学歯学部講師 片岡 有 『効果的な初年次教育について』

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

第34回 日本柔道整復接骨医学会学術大会 連携企業等: 日本柔道整復接骨医学会 研修名:

期間: 令和7年12月6日(土)・7日(日) 対象: 柔道整復師

テーマ:「柔道整復師~多様性の時代にどう生きるか」 内容 医学的内容の公演や教育講演、徒手整復、物理療法、治療法などに関する分化会や症例発表等

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名· 第67回 教員研修会 連携企業等: 公益社団法人全国柔道整復学校協会

2025年9月27日(十)-28日(日) 期間: 対象· 圣道整復科数昌

『筋腱移行部損傷の修復過程の組織学的解析』

『教育機関と臨床現場の融合を目指して』 内容

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行 うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。関係

(1)学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を 行い、客観性や透明性を高める。

学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置 」、、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果 を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校 評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念•目標
(2)学校運営	(2)学校運営
(3)教育活動	(3)教育活動
(4)学修成果	(4)学修成果
(5)学生支援	(5)学生支援
(6)教育環境	(6)教育環境
(7)学生の受入れ募集	(7)学生の受入れ募集
(8)財務	(8)財務
(9)法令等の遵守	(9)法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	(10)社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会会議における、本校の自己点検に対する評価委員からの主な意見と、それに対する本校の対応(活用)方法は以下のとおりです。

評価委員からは、留学生の増加に伴い、日本語学習の困難や文化的背景への配慮が必要であるとの指摘があり、非漢字圏の学生への対応や語学支援の強化が求 められています。また、英語圏以外の国々からの学生が増えていることを踏まえ、国際交流や交換留学制度の整備、Zoom等を活用した海外との交流機会の創出が 望ましいとの意見がありました。

2. 教育内容・学習環境の向上

委員からは、学生の作品の質が年々向上していることが評価される一方で、医療分野におけるAI活用など、より実践的な教育内容の充実が求められています。また、 番組制作やカメラ・照明などの職人的分野では、現場での学びが重要であり、専門学校としての強みを活かすべきとの指摘がありました。加えて、教職員のデジタル 知識の向上が必要であるとの意見も示され、ICT活用の推進が課題とされています。

地域連携・社会とのつながり

地域との連携については、ボランティアやアルバイトなど地域密着型の活動を経験している学生が多く、これを学校の特色として活かすべきとの指摘がありました。ま た、地域のスポーツ団体とのマッチング機会の創出や、予算面での課題を踏まえた地域活動の工夫が求められています。

4. 多様な学習者・進路支援への対応

委員からは、総合型入試を活用する学生の増加や、資格取得を通じた進学支援の必要性が指摘されました。さらに、社会人が専門学校で学び直す際には、資格取 得が可能な環境整備や、異なる年齢層が共に学ぶことによる相互刺激の価値を重視すべきとの意見があり、多様な学習者に対応する柔軟な教育体制の構築が求め られています。

5. 学生支援・メンタルヘルスの充実

学生が安心して学べる環境づくりに向けて、メンタルヘルス支援の充実が必要であるとの指摘がありました。言葉の掛け方によって学生の反応が変わることから、教 職員の対応力向上も重要視されています。また、健康面での支援体制の強化や、個々の学生に応じた支援のあり方についても、今後の検討課題として挙げられてい

以上の内容を踏まえ、学校関係者評価委員会において討議された事項に基づき、次の5項目について検討を行い、今後の取組に活用してまいります。

- ・日本語教育の強化や海外との交流機会の創出、国際連携の推進など、留学生がより学びやすい環境づくりについて今後の整備を検討します
- 地域企業や団体との協働、地域イベントへの参加促進などを通じて、学生の実践力育成と学校の地域貢献を目指す取り組みを模索しています。
- 教職員のICTスキル向上や授業のデジタル化、学生成果の外部発信など、教育の質を高めるための環境整備を段階的に実施していきます。
- ・社会人や非全日制学生への柔軟な学習支援、資格取得支援制度の整備など、多様な学びのニーズに応える体制づくりを今後の課題としています。 ・メンタルヘルス支援や多言語対応、個別支援の充実など、学生が安心して学べる環境の構築に向けた取り組みを引き続き検討していきます。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
森 健介	順天堂大学 非常勤講師 (元白梅学園高等学校副校長)	令和7年4月1日~ 令和8年3月31日(1年)	学校関連
金子 英明	日本工学院八王子専門学校 校友会会長 (セントラルエンジニアリング 株式会社)	令和7年4月1日~ 令和8年3月31日(1年)	卒業生/企 業等委員
細谷 幸男	八王子商工会議所 専務理事	令和7年4月1日~ 令和8年3月31日(1年)	地域関連
山本 哲志	株式会社フジ・メディア・テクノロジー 管理センター 総務部長	令和7年4月1日~ 令和8年3月31日(1年)	企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務 局長	令和7年4月1日~ 令和8年3月31日(1年)	企業等委員
才丸 大介	株式会社カオルデザイン 取締役 マーケティング戦略室 室長	令和7年4月1日~ 令和8年3月31日(1年)	企業等委員
矢野 俊宏	株式会社田中建設 取締役 営業本部長	令和7年4月1日~ 令和8年3月31日(1年)	企業等委員
池田 つぐみ	NPO法人日本ストレッチング協会 理事	令和7年4月1日~ 令和8年3月31日(1年)	企業等委員
石川 仁嗣	医療法人社団 健心会 みなみ野循環器病院 事務長	令和7年4月1日~ 令和8年3月31日(1年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・ 広報誌等の刊行物・ その他(

))

URL: <u>URL:https://www.neec.ac.jp/public/</u>

公表時期: 令和7年9月30日

- 5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を 提供していること。」関係
- (1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。

また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は、法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(2)各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3)教職員	教員·教員組織
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5)様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6)学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7)学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8)学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9)学校評価	学校評価、令和6年度の項目別の自己評価表
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法 (ホームページ・

) 広報誌等の刊行物 ・ その他(

))

URL: URL:https://www.neec.ac.jp/public/

公表時期: 令和7年9月30日

授業科目等の概要

]課程 柔道整復和	4)											
	- 2	分類	ĺ						授	業力	法	場	所	教	員	
		選択必修	由選	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	講義	演習	実験・実習・実技			専任		企業等との連携
1	0			栄養学1	生涯を通じた健康的な食生活の送り方や生活習慣病予防のための栄養摂取について学びます。		15	1	0			0			0	
2	\circ			栄養学2	生涯を通じた健康的な食生活の送り方や生活習慣病予防のための栄養摂取について学びます。	1 • 後	15	1	0			0			0	
3	0			経営管理1	経営管理に必要な税務の基礎を学びます。	1 • 前	15	1	0			0			0	
4	0			経営管理2	経営管理に必要な税務の基礎を学びます。	1 • 後	15	1	0			0			0	
5	0			スポーツ1	各種スポーツから健康と運動の必要性につ いて基礎的な分野を学びます。	1 • 前	30	1			0	0			0	
6	0			スポーツ 2	各種スポーツから健康と運動の必要性につ いて基礎的な分野を学びます。	1 • 後	30	1			0	0			0	
7	0			手話 1	日本手話実技とろう文化を学びます。	1 • 前	30	2	0			0			0	
8	0			手話2	日本手話実技とろう文化を学びます。	1 • 後	30	2	0			0			0	
9	0			解剖学 1	人体のしくみと成り立ちを学ぶ学問であり、疾病の原因またはその治療にあたる人には欠かすことのできない学問です。各器官を系統立てて学びます。		60	4	0			0			0	
10	0			解剖学 2	人体のしくみと成り立ちを学ぶ学問であり、疾病の原因またはその治療にあたる人には欠かすことのできない学問です。各器官を系統立てて学びます。	1 • 後	60	4	0			0			0	
11	\circ			生理学1	人体の生命活動に必要な細胞等の役割を理解し人体の基礎的生理学を学びます。	1 • 前	30	2	0			0			0	
12	0			生理学2	人体の生命活動に必要な細胞等の役割を理解し人体の基礎的生理学を学びます。	1 • 後	30	2	0			0			0	
13	0			病理学1(総論)	疾病の成り立ちを学びます。	1 • 後	15	1	0			0			0	
14	0			柔道 1	柔道を通じ礼法を学びまた基礎体力を養い ます。	1 • 前	30	1			0	0		0		

				_									
15	0	柔道 2	柔道を通じ礼法を学びまた基礎体力を養います。	1 • 後	30	1		\circ	0		0		
16	0	医学史	主に予防医学の歩みについて学びます。	1 • 後	30	2	0		0		0		
17	0	医療関係法規	柔道整復師法とその他の医療関係法規について学びます。	1 • 前	15	1	0		0		\circ		
18	\circ	社会保障制度	医療費等の社会保障制度を学びます。	1 • 前	15	1	0		0		0		
19	0	運動器・頭部	外傷を学ぶ上で欠かすことのできない運動 器の基礎について学びます	1 • 前	30	2	0		0		0		
20	0	運動器・体幹	外傷を学ぶ上で欠かすことのできない運動 器の基礎について学びます	1 • 前	30	2	0		0		\circ		
21	\circ	運動器・上肢	外傷を学ぶ上で欠かすことのできない運動 器の基礎について学びます	1 • 前	30	2	0		0		0		
22	0	運動器・下肢	外傷を学ぶ上で欠かすことのできない運動 器の基礎について学びます	1 • 前	30	2	0		0		\circ		
23	0	施術総論	各外傷に対応する柔道整復術の基礎を学び ます。	1 · 後	30	2	0		0		\circ		
24	0	骨折総論	各外傷に対応する柔道整復術の基礎を学び ます。	· 後	30	2	0		0		\circ		
25	0	脱臼総論	各外傷に対応する柔道整復術の基礎を学び ます。	1 · 後	30	2	0		0		0		
26	0	軟部組織損傷総 論	各外傷に対応する柔道整復術の基礎を学び ます。	· 後	30	2	0		0		0		
27	\circ	業務用語 1	業務上必要な各用語について学びます。	1 • 前	15	1	0		0			0	
28	0	業務用語 2	業務上必要な各用語について学びます。	1 · 後	15	1	0		0			0	
29	\circ	固定方法	患部を固定する様々な手段を学びます。	1 • 前	15	1	0		0		\circ		
30	0	ほねと筋肉1	体の各部位について幼児や老人にも理解し やすく説明できる知識を学びます。	1 • 前	30	2	0		0		\circ		
31	0	ほねと筋肉2	体の各部位について幼児や老人にも理解し やすく説明できる知識を学びます。	1 • 後	30	2	0		0		0		
32	0	包帯 1	柔道整復師に必要な包帯の巻き方について 学びます。	1 • 前	30	1		0	0			0	0
33	\circ	包帯 2	柔道整復師に必要な包帯の巻き方について 学びます。	1 • 後	30	1		0	0			0	0
34	\circ	臨床実習 1	介護施設、整形外科、大会救護などの医療 現場等で臨床実習を行います。	1 • 後	45	1		0	0	0	0	0	

			1	T	Ī					l		
\circ	施設見学1	様々な施設を訪問し社会人として見分を広めます。	Ι.		1	0			0	0	\circ	
0	解剖学3	人体各器官の存在場所や特徴を学び解剖学 を統括します。	Ι.		2	0			0			0
0	解剖学4	人体各器官の存在場所や特徴を学び解剖学 を統括します。	Ι.		2	0			0			0
0	生理学3	人体の生理的活動を具体的に学び理解を深めます。	Ι.		2	0			0			0
0	生理学4	人体の生理的活動を具体的に学び理解を深めます。	Ι.		2	0			0			0
0	病理学2(概論)	炎症や腫瘍等の基礎知識を学びます。	2 • 前		2	0			0			0
0	病理学3(概論)	炎症や腫瘍等の基礎知識を学びます。	2 • 後		2	0			0			0
0	柔道 3	投げ技、抑え技について形を中心に学びま す。	Ι.		1			0	0		0	
0	柔道 4	投げ技、抑え技について形を中心に学びま す。	١.		1			0	0		0	
0	ケガの手当 1	軽症の応急手当についての知識を学びます。	2 • 前		2	0			0			0
0	ケガの手当2	軽症の応急手当についての知識を学びます。	2 · 後		2	0			0			0
0	骨折理論(上肢)	部位別の具体的な外傷の成り立ちや施術方 法について学びます。	1		2	0			0		0	
0	骨折理論(下肢)	部位別の具体的な外傷の成り立ちや施術方 法について学びます。		30	2	0			0		0	
0	脱臼理論	部位別の具体的な外傷の成り立ちや施術方 法について学びます。	Ι.		2	0			0		0	
0	軟部組織損傷各 論	部位別の具体的な外傷の成り立ちや施術方法について学びます。	1.		2	0			0		0	
0	物理療法理論	部位別の具体的な外傷の成り立ちや施術方 法について学びます。	1.		2	0			0			0
0	施術概論 1	部位別の具体的な外傷の成り立ちや施術方 法について学びます。	1.		2	0			0			0
0	施術概論 2	部位別の具体的な外傷の成り立ちや施術方 法について学びます。	Ι.		2	0			0			0
0	画像観察	安全に柔道整復術を提供するために様々な 医療用画像について学びます。	2	30	2	0			0			0
0	予防指導1	健康に生活する上で必要な知識と情報を学びます。	2	30	2	0			0		0	
		 解剖学3 解剖学4 生理学3 生理学4 病論, 理学3 (概) (無) (期) (期) (期) (期) (期) (対) (月) (対) <	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	● 解剖学3 人体各器官の存在場所や特徴を学び解剖学 2 を統括します。	# (では	映画	一	# (一	機割学3	解剖学3

		 -		_									
55	0	予防指導2	健康に生活する上で必要な知識と情報を学 びます。	2 · 後	30	2	0		0		0		
56	0	骨折実技(上肢 1)	部位別に具体的な外傷の整復・固定・後療 法等や治療に至るまでの注意事項を学びま す。	2	30	1		0	0		0		
57	0	骨折実技(下肢 1)	が 部位別に具体的な外傷の整復・固定・後療 法等や治療に至るまでの注意事項を学びま す。	2	30	1		0	0		0		
58	0	脱臼実技(上 肢)	が 部位別に具体的な外傷の整復・固定・後療 法等や治療に至るまでの注意事項を学びま す。	2	30	1		0	0		0		
59	0	軟部組織損傷実 技	が 部位別に具体的な外傷の整復・固定・後療 法等や治療に至るまでの注意事項を学びま す。	2	30	1		0	0		0		
60	0	触診実技	が 部位別に具体的な外傷の整復・固定・後療 法等や治療に至るまでの注意事項を学びま す。	2	30	1		0	0			0	
61	0	物理療法実技	が 部位別に具体的な外傷の整復・固定・後療 法等や治療に至るまでの注意事項を学びま す。	2	30	1		0	0			0	
62	0	後療法実技1	部位別に具体的な外傷の整復・固定・後療 法等や治療に至るまでの注意事項を学びま す。	2	30	1		0	0			0	0
63	0	後療法実技2	が 部位別に具体的な外傷の整復・固定・後療 法等や治療に至るまでの注意事項を学びま す。	2	30	1		0	0			0	0
64	0	臨床実習 2	指導柔道整復師のもとで、接骨院における 施術の流れを実習します。	9	45	1		0	0	0	0	0	
65	0	施設見学2	様々な施設を訪問し社会人として見分を広めます。	9	15	1	0		0	0	0		
66	0	運動処方1	健康と運動の必要性について応用的な分野 を学びます。	2	30	2	0		0			0	
67	0	運動処方2	健康と運動の必要性について応用的な分野 を学びます。	9	30	2	0		0			0	
68	0	からだのしくみ 1	体の働きについての概要を学びます。	3 • 前	30	2	0		0			0	
69	0	からだのしくみ 2	体の働きについての概要を学びます。	3 · 後	30	2	0		0			0	
70	0	生理学5	生理学を統括し理解を深めます。	3 • 前	30	2	0		0			0	
71	0	生理学6	生理学を統括し理解を深めます。	3 · 後	30	2	0		0			0	
72	0	運動学1	基礎力学や身体の動きや歩行のメカニズム を学びます。	3	30	2	0		0			0	
73	0	運動学2	基礎力学や身体の動きや歩行のメカニズム を学びます。	2	30	2	0		0			0	
74	0	病理学 4 (各 論)	各疾病の特徴を学びます。	3 • 前	15	1	0		0			0	

75	\circ	整形外科学1	整形外科治療の基礎知識や代表的治療方法を学びます。	١.	30	2	0			0		0
76	\circ	外科学概論 1	外科的治療の基礎と具体的方法を学びま す。	前 3 •	30	2	\circ			0		0
77	\circ	外科学概論 2	外科的治療の基礎と具体的方法を学びます。	前 3 •	30	2	\circ			0		0
78	0	整形外科学2	柔道整復師の適応外傷について学びます。	後 3 • ※	30	2	0			0		0
79	0	柔道 5	 柔道整復師として必要な柔道の技術・知識 を習得します。	Ι.	45	1		(0	0	0	
80	0	骨折整復学(上 肢)	上肢の骨折を統括します。	3 • ※	30	2	0			0	0	
81	0	骨折整復学(下 肢)	下肢の骨折を統括します。	後 3 • ※	30	2	0			0	0	
82	0	外傷学	 外傷と、その対応策および予防策を学びま す。	Ι.	30	2	0			0	0	
83	0	施術概論3	部位別に具体的な外傷の成り立ちや治療方法を学びます。	١.	30	2	0			0		0
84	0	施術概論 4	部位別に具体的な外傷の成り立ちや治療方法を学びます。	前 3 · 後	30	2	0			0		0
85	0	機能訓練 1	機能訓練指導員として必要な知識を学びます。	3	30	2	0			0		0
86	\circ	機能訓練 2	機能訓練指導員として必要な知識を学びます。	3	30	2	0			0		0
87	0	予防指導3	生活環境について学び、保健衛生行政機関 の仕組みを理解します。	2	30	2	0			0	0	
88	0	予防指導4	生活環境について学び、保健衛生行政機関 の仕組みを理解します。	2	30	2	0			0	0	
89	\circ	骨折実技(上肢2)	部位別に具体的な外傷の整復・固定や治療 に至るまでの注意事項を学びます。	2	30	1		(0	0	0	
90	0	骨折実技(下肢2)	部位別に具体的な外傷の整復・固定や治療 に至るまでの注意事項を学びます。	2	30	1			0	0	0	
91	0	脱臼実技(下 肢)	部位別に具体的な外傷の整復・固定や治療 に至るまでの注意事項を学びます。	3	30	1			0	0	0	
92	0	徒手検査法実技	部位別に具体的な外傷の整復・固定や治療 に至るまでの注意事項を学びます。	3	30	1			0	0	0	
93	\circ	ギプス固定実技	部位別に具体的な外傷の整復・固定や治療 に至るまでの注意事項を学びます。	2	30	1			0	0	0	
94	0	脱臼整復実技	脱臼を統括します。	3 ・後	30	1			0	0	0	

95	0			テーピング固定 法実技	部位別に具体的な固定方法を学びます。	3 • 後	30	1			0	0		0	
96	0				指導柔道整復師のもとで、接骨院における 施術の流れを実習します。	3 • 前	45	1			0	0	0	0	0
97	\circ				指導柔道整復師のもとで、接骨院における 施術の流れを実習します。	3 • 前	45	1			0	0		0	
98	0			施設見学3	様々な施設を訪問し社会人として見分を広めます。	3 • 前	15	1	0			0	0	0	
99	0			施設見学4	様々な施設を訪問し社会人として見分を広めます。	· 3· 後	15	1	0			0	0	0	
100	0			特別ゼミ	柔道整復師国家試験合格のための特別講座 を実施します。	3 · 後	60	4	0			0		0	0
	合計 100 利				斗目			940 163		単位	立 (単位	[時間]		

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要 件:	卒業時に必修科目2940時間(163単位)取得すること。	1 学年の学期区分	2 期
履修方法:	1年次から2年次への進級条件は、1年次の必修科目をすべて履修すること。 2年次から3年次への進級条件は、2年次の必修科目をすべて履修すること。 卒業するためには、3年次の必修科目をすべて履修すること。	1 学期の授業期間	15 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場 合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。